

足利風 -ashikaga-fu

2023
春号
Vol.85



画：斎藤 博

足利市民活動センター

開館時間：平日 10:00~19:00

休館日：土・日・祝日・第3月曜日

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1

足利市生涯学習センター3F

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- * 特集！
「悶えて加勢する」
- * 言葉のあやとり
「ヤング・ケアラー」
- * 私のボランティアことはじめ
「子どもの居場所
こどもの里を訪ねて」
- * マチのちゃぶ台
「粋と雅びのまち」
- * INFORMATION

* 特集！ *

「悶えて加勢する」

「水俣まで遠いところを足利から加勢に来てくれてありがとう」と、その人は初対面の二十歳そこそこの私に言った。“加勢”という言葉が新鮮だった。

学生時代東京の山谷という寄せ場でボランティア活動をしていた私に、足利とも多少のご縁のあった栗原 彬さん（元水俣フォーラム代表）から声をかけてもらった。「水俣ではやっと水俣病が認知され始めたけれど、実は胎児性水俣病の子どもたちが何の支援も得られずにいるんだ」。新幹線はできたばかりだったし、在来線を乗り継いでの水俣まではホントに遠かった。

石牟礼道子さんは「いまわの花」で書いている～「生月島隠れ切支丹の人たちは受難の時代からの歌オラショを残している・・・この文言を読んで思い浮かぶのは、水俣病で死んだ幼女が、いまわの際にみていた花の色である・・・まだ原因不明でみまかった娘は八つであった。娘の病状に放心している母親の耳にまわらなくなってしまった口でいう娘の声が届いた・・・

なあ かかしゃん かかしゃん
しゃくらははなの 咲いとるよう
美（いつく）しさよ なあ
なあ しゃくらははなの いつくしさよう
なあ かかしゃん しゃくらははなの



母親は、娘の眸に見入った。“あれまだ・・・、この世が見えとったばいなあ”

美しか、おひなさんのごたる指しとりましたで、曲がってしもて。その指で桜ば指してみせて。ああいうところはこの世とあの世のあいだでしょうなあ。」

駆けつける。でも何もできない・・・それでも“悶えて加勢する”と。水俣でボランティア活動の原点を思い知った。天の言葉を預かる“預言者”石牟礼道子さんは、水俣病の人たちの“赦（ゆる）し”の声を聴きとった。水俣に“もやい直し”という言葉がある。まず自分が人間になり直す作業を魂に課すこと。穏やかに石牟礼道子さんは語ってくれた・・・。（M生）

* 言葉のあやとり *

「ヤング・ケアラー」

“ヤング・ケアラー”は、家族にケアを必要とする人がいるために、本来、大人がすると想定されているような家事・家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の子どもや若者を指します。これまでは日本では“美談”として捉えられてきましたが、“ヤング・ケアラー”が誰からのサポートを得られないまま、その年齢には重すぎる責任・作業を長年にわたり担うことは、二度とない人生にあって、その子ども・若者には、自己肯定感が低くなってしまふこと等マイナス面も大きいのです。子どもの権利条約の面からも、家族の世話をすることは大切ですが、自分自身の事にも時間を使いたいと望むことは決してわがままではありません。

“ヤング・ケアラー”のみなさんへ

いつも年れい以上の役割をしてくれてありがとう。しんどい、こまった、わからない、もうイヤ・・・って気持ちになっていませんか？ そういう気持ちになることは当たり前なんです。おとなの役割を引き受けることは大変です。むずかしいと思うけど、あなたの「しんどい」を大人の方にわたして下さい。大人の方の力を使ってください。子ども時間はあなたのものです。大人がするべきことは大人にまかせて、子ども時間を自分のために使ってください

* 私のボランティアことはじめ *

「子どもの居場所 こどもの里を訪ねて」

さくらエルマー学童くらぶ 三田 和子

昨年 11 月、私用で大阪まで行くことになったので、かねてから伺いたいと思っていた「こどもの里」を視察させていただきました。認定 NPO 法人 こどもの里は「さとにきたらええやん」という映画にもなった「こどもの居場所」です。また 2018 年に足利市で開催された「子どもの権利条約フォーラム in とちぎ」では映画の上映と理事長の荘保共子さんに講演していただきました。



そんなご縁で今回は荘保さんにお時間を作っていただき、こどもの里でいろいろお話を聴かせていただきました。

こどもの里の入口にはこどもの目の高さに「こどもの里はこどもたちの遊び場です」と書かれていました。こどもたちが安心して「こどもの里」に来られる大切な看板だと感じました。中の雰囲気は学童保育のようでしたが、学童保育の他、地域子育て支援拠点・小規模住居型児童養育事業、緊急一時保護・宿泊所中高生・障がい児居場所事業、自立援助ホームと様々な事業をされていました。驚いたことに自立援助ホーム以外はすべてこのこどもの里のこの建物でやっているということでした。「だってこどもたちを区切ることなんてできないでしょ。なんでもここでやったらいいのよ」という荘保さんの言葉にハッとさせられました。この言葉はこどもの里の理念の一番目にもかかげられている「誰でも利用できる場」であり、荘保さんがこどもの声を聴きぶれずに「こどもの最善の利益」を追求して、こどもたちを受け止め続けてきた結果だと気づいたからです。

2022 年にこども基本法が制定され、今年 2023 年 4 月に施行されます。「こどもの意見表明権」と「こどもの意見の尊重」が法制化されます。

こどもの声を聴き、こどもの最善の利益をこどもたちと一緒に考え、こどもたちが安心して来られる・居られるそんな居場所を増やしていかなければならないと思いを新たに帰途に着きました。



* マチのちゃぶ台 *

「粋と雅びのまち」

何を載せてもいい。誰と食べてもいい。食卓にもなれば雑談の場にもなる。それを囲むだけで緩やかなつながりができる。そう言えば、アジアの特徴は食卓共同体だと言う人もいた。昼時、そこにいる人たちは自然に家族のようにちゃぶ台（食卓）を囲む。場は自然に和み、無用な対立はうさん霧消する・・・。

・・・「時々、時代のトップランナーになるマチ」が、あるそうだ。室町足利幕府を足利尊氏が創り、坂東のアカデミア・足利学校が創建され、繊維産業では一時代を足利銘仙が席卷した・・・。しかしながら、近頃元気が今一步足りない感がするというわけである。が、しかし、前のものに加えるならば足利の繊維の旦那衆の社会貢献団体「足利友愛義団」というものがあつた。“友愛”とは洋風の言葉だ。生糸交易の必要から、番頭・丁稚たちに東京の私学英語教師を呼んだ。同時に彼らは母国の慈善・博愛精神を栃木の片田舎に運んだ。ビジネス&文化多様性の一挙両得の手腕は現代の S D G s そのものだ。「足利友愛義団」は、21世紀環境問題で刮目される田中正造の“義”を応援した。“富”と“倫理”の両立するマチがあつてもいい。 (日々野人)

* INFORMATION *

※コロナ感染対策により内容が変更・中止になる場合があります。)

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。

★令和5年4月21日(金) PM2:00~4:00

*本:「食卓の情景」(池波正太郎)

*案内人: 石川博右 さん

*ひとこと: 浅草生まれの食と旅の達人・池波正太郎さんの伝説の名随筆です。何年、何十年たっても、消え去るところか逆に一層の光彩を放ち、多くの人びとの心にどっしりと根をおろして行く・・・そういう本がある。これは、そういう珍重すべき本の一冊である。読み直すたびに何かしら新しいことを発見する。まさに噛んで噛んで味わい尽くすべき本である。みなさんと一緒に楽しみましょう!

★令和5年5月20日(土) PM1:00~3:00

*本:「京都の平熱」(鷺田清一)

*案内人: 鈴木 光尚 さん

*ひとこと: モード論などでも有名な哲学者であり、名エッセイストである鷺田清一さんは、京都生まれ、京都育ち。市内周回のバス・ルートに沿いながら「奇人の多い街・京都」の特異性を語ってくれる。舞妓さんの足し算の極みと修行僧の引き算の極みのファッション両極対比・・・等々を語り尽くす。数ある京都案内書&まちづくりの参考書としても抜群に面白いです。ぜひ、一緒に!

★令和5年6月16日(金) PM2:00~4:00

*本:「上杉鷹山」(童門冬二)

*案内人: 白田 明 さん

*ひとこと: J・F・ケネディが最も尊敬する日本人として上杉鷹山をあげたことは有名な話です。鷹山の生きざまからは、正直さ・誠実さ・率先垂範・・・などがあげられ、「誤って改むるに憚ることなかれ」という信条には同感する人も多い。為政者としてだけでなく、一人の生活者・人格者としても尊敬できる点が多い。コロナ禍の迷った現在だからこそその一冊です。ぜひご参加を!

■参加費: 無料

■会場/問い合わせ: 足利市民活動センター ☎44-7311

☆企画展 (交流コーナー) (5/15・土・日・祝日・第3月曜日は休館日)

- | | |
|-----------------------|----------------|
| * 4月 3日(月) ~ 4月13日(木) | ワールド・フード・イラスト展 |
| * 4月18日(火) ~ 4月27日(木) | みんなの竹工芸展 |
| * 5月 1日(月) ~ 5月18日(木) | 足利リビルドの会展 |
| * 5月22日(月) ~ 6月 1日(木) | 遠い日のふるさと展 |
| * 6月 5日(月) ~ 6月15日(木) | 彩美会水彩画展 |
| * 6月20日(火) ~ 6月29日(木) | 銘仙と足利古写真展 |

※展示時間・・・10:00~19:00 ただし最終日は15:00まで

☆相談室&講座 ※詳しくは、別紙参照

- * 相談室 = 4月15日(土) 13:00~15:00 「腰痛の治し方あれこれ」
5月10日(水) 14:00~16:00 「足利歴史散歩」
6月14日(水) 14:00~16:00 「スマホをはじめ」
- * 講座 = 4月20日(木) 19:00~21:00 「子供支援」
5月18日(木) 19:00~21:00 「異世代協働」
6月15日(木) 19:00~21:00 「歴史と文化 in 足利」

編集後記

光熱費の請求書を何度も見返して「ふー」とため息、食材も軒並み高騰した。この際、おさいふのためにも健康のためにもと『一汁一菜』を家族に提案したが、一番のメリットは「これでいいんだと」私の気持ちが楽になったことだ。(しおぼん)